

巻頭言

提案営業を考える



代表取締役専務
竹村 寧

桜前線の到来と共に、いよいよ浜名湖花博（パシフィックフロラ2004）が当地浜名湖畔で開催される。日本では過去に大阪と淡路で開催されて今回が3回目の開催となるが日本のご真ん中、しかも我々のごく身近な場所で開催されることは、昔前には考えられず、夢のような話で誠に喜ばしい限りである。

過去を振り返っても当地域でこのような大きなイベントは例が無く、おそらく今後に於いてもこれだけ大規模な

国際イベントは出てこないのではないかと。それだけに今回の浜名湖花博は人々の想像を越えた人的交流、文化、経済など様々な分野で大変なインパクトがあると期待されている。我々も国際人としての自覚を高め、同時に地域社会の一員として他地域でのPRや勧誘活動を通しての情報発信をするなど来訪者には親切な対応を常に心がけて、微力ではあるが少しでもこの浜名湖花博の気運を盛り上げる様努力したいと思っている。

又、今回の開催会場の施設建設に於いて我々も浜松産業館E・R・A館（共同企業体）、国際花の交流館を始めとして歓迎モニユメントや交通アクセス等の関連工事を施工させていただいた。特に歓迎モニユメントについては文字通り会場の玄関口に設けられ浜名湖花博の来場者に今回のテーマを印象

づけるもので、公募により我々の企画提案が採択されたことは主催者側のニーズをそれなりに具現化することができ、提案についての客観的な評価をいただいたということで大変光栄に思っている。

最近では官民を問わず顧客（発注側）のニーズも大きく変化してきており、事業開発やPFI、VE、性能規定といったいわゆる提案力を活用した企画提案型による発注方式が多くなってきた。事業コストが厳しくなる中では当然のように顧客（発注者）の利益になることを企画し提案しなければ工場の受注もおぼつかない。したがって営業をする場合はまず顧客の利益を考えることではじめて我々の利益がついてくるといった認識を持たなければならぬ。それは「足で売る」「根性で売る」という「肉体労働」的な営業

だけでなく、顧客を満足させる「提案を売る」という「知的な労働」に変えていく必要がある。顧客の利益になることは何か、どうしたら顧客の問題を解決できるか、どういった役に立つことができるか等、徹底的に顧客を満足させるアイデアを考えて企画を練り、提案することによって我々に対する評価をいただけるものと思う。

「営業センス」は「情報加工センス」と言われている。情報を集め選択し、その情報を組み合わせてアイデアとなる。今までのやり方にとらわれることなく、それぞれが持ち味を活かし、新しい方式にチャレンジする「勇気」を持って取り組んでいくことを期待したい。

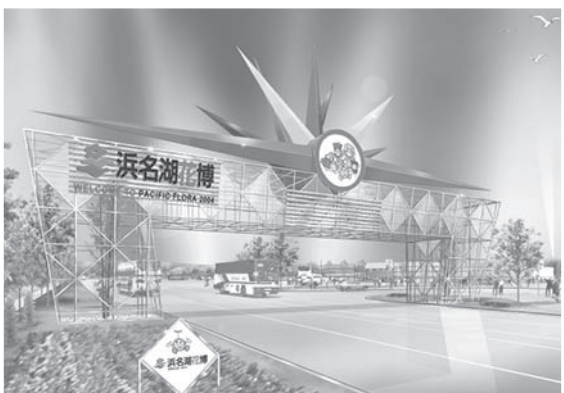
浜名湖花博 歓迎モニユメントデザインコンペについて

当社提案の採用へ 一級建築士事務所 鳥山博之

去年暮れ、花博会場西側のパスバーク進入路に設置する、歓迎モニユメントデザインコンペの指名が当社に来ました。1月16日に提出期限という正月休みを挟んで非常に短期間のコンペでありました。

浜名湖花博のテーマ「花・緑・水」新たな暮らしの創造」からまず考えたことは、自然や人々の生活の中で欠かせないもの…それは光。光が水や土を育て緑や花が誕生する。自然界の光合成により、この地球上に美をもたらし、私たち人間に喜びや感動を与えてくれる。自然のメカニズムと人とのつながりの再認識をテーマに案の構想を練った。

一つ一つの要素を芽としてとらえ形と色に置き換える。光は赤色の芽、水は青色の芽、土は黄色の芽、緑は緑色



（完成予想図）

の芽、その中心の芽が人であり、すべての芽が合体して花になり、輝く大輪の花を咲かせる。そしてそれを支えるものが大地である。そんなイメージを形

にしたものを、パース、図面化し、概算見積とともに提出した。結果は、参加6者の中から当選することが出来ました。

限られた時間の中で、関わった人の総力で当選でき、今3月20日の完成を目指し大急ぎで作業をしている最中です。まだ途中ですが、多くの人がこのゲートをくぐり、会場内で充実した日を過ごし、自然への関心が深まり、その後の暮らしの中で心の豊かさを再発見してくれることを願っています。

平成15年度

下期VE発表会

平成15年度 下期のVE大会が1月31日に本社講堂にて開催されました。

今年で4年目となった今回の発表会からは、すべての発表者がパソコンとプロジェクターを利用したプレゼンテーションに変わり、個人のプレゼンの上達とVEが定着してきている印象を受けました。

各部門の代表9チームが発表を行い即日の選考により左記の通り表彰が行われました。

- | | | |
|-----|--------|-------|
| 金賞 | 建築第1G | 近田日出夫 |
| 銀賞 | 建築第1G | 鈴木 宗和 |
| 銅賞 | 住宅工事G | 渡辺 成一 |
| 銅賞 | 土木本部 | 戸田 栄治 |
| 特別賞 | 名古屋建築G | 齋藤 英貴 |

表紙の写真

平成16年1月5日 互礼会の後、中庭において撮影されました。

